

前橋市社会福祉審議会 (第8期)第3回高齢者福祉専門分科会[書面] <結果概要>

(1) アンケート調査の結果について

① 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査の実施概要【資料1-1】

No.	該当ページ	意見等内容	回答
1	3	問2(6)について、要介護状態でないのに、外出しない日が週3日以上ある回答者が60%以上であることに驚いた。身体の衰えや認知症が進行しないよう、外出を促す情報の提供に力を入れていただきたい。	外出や人との交流を持ち続けることは重要であることから、地域の交流の場や通いの場の情報提供については、関係機関との協働を含め広く周知を行っていく予定です。また、高齢者のフレイルに対する気づきとなる教室への参加を促すため、包括連携協定先であるスーパーや銀行等に周知の協力を依頼するなど、社会参加と気づきの創出を図ってまいります。
2	11	問7(2)について、「あなたは、現在のどの程度幸せですか」との調査結果について、グラフには「0～10」の数値があり、人数が記載されているが、どのような質問から得られた回答か。幸せ度の最高値を10として、0～10までを選ぶというものか。「幸せ」という文言が漠然としていて、どのように捉えたらよいか難しいと感じた。	お見込みのとおり、「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、0～10のいずれかを選択する質問です。この問は、主観的幸福感を問いかけるものとして、厚労省より二一ズ調査を実施する際の必須項目として提示されています。今後、他の回答結果とも比較しながら分析を進め、地域の精神面での健康を促進するよう活用してまいります。
3	2～5	階段・立上りなどで自立度が高い人も転倒が多いこと、もの忘れが気になる人が多いことが印象的だった。	コロナフレイルと言われる状況が背景にあることも踏まえ、外出や交流の機会を維持することがフレイル予防、ひいては筋力・バランス機能の維持と認知症予防につながることを啓発を今後も継続してまいります。
4	6～9	地域活動に参加している人の割合が思っていたより少ないと感じた。市民への周知が広がればさらに機能するのではと思う。	地域活動に参加する人が増えれば、健やかで活力ある生活を送る人も増え、地域ぐるみの健康づくりに繋がると考えます。本市で実施するふれあいいきいきサロンやピンシャン体操クラブ等の通いの場を中心に、関心のある市民へ必要な情報が提供できるよう、地域の状況を把握しながら、関係機関と協働しさらなる周知を図ってまいります。

② 在宅介護実態調査の実施概要【資料1-2】

No.	意見等内容	回答
1	現在の回収数が194件とのことだが、配布したのは何件か。	2月28日時点における配布数は348件です。なお、資料に記載しました回収数は3月10日時点ですが、配布数につきましては調査票の返却数をもって月末時点で取りまとめているため、現時点で把握している配布数は2月末時点となります。
2	サンプルの確保が目標より大幅に遅れていることについて、配布できる対象が減ってしまったのか、または、回答率が悪かったか、どちらか。	担当ケアマネジャーへアンケート用紙を渡す事例があったという分科会でのご意見を受け、本調査の趣旨を踏まえ、要介護認定調査時に市の職員が確認し、在宅で介護をしているご家族等にアンケート用紙を配布することを徹底しているため、サンプルの確保が遅れている状況です。

(2) 臨時委員の公募結果について【資料2】

No.	意見等内容
1	倍率3.3倍の中から選ばれた人達であり、心強く思う。
2	短期間で多数の応募があり、市民の関心が窺える。

(3) 今後の分科会開催日について【資料3】

※特にありませんでした。

(4) 次期介護保険制度の見直しに関する意見(概要)【参考資料】

No.	該当ページ	意見等内容	回答
1	2	介護保険制度の持続について最も切実な問題が介護人材の確保と思われる。	本市では、介護人材の確保及び育成を目的とした研修の実施や、介護ロボットやICT活用に向けた補助制度の紹介、若年層に対する介護職の魅力発信を目的に介護現場で働く若手職員や介護職を目指している学生を紹介する冊子の作成を行ってまいりました。一方で、全国的に介護サービスの需要がさらに高まるが見込まれますので、今後も、国・県主導の下、取組を検討していきます。